

掲 示 板

2023 年度第 2 号(通巻 104 号) 2024 年 6 月 4 日発行



ハツミヨザクラ (栴島提供)

「参加することでより学びあう」

みなさんこんにちは。学芸員の橋本です。10 月 1 日よりフィールドレポーターの担当となりました。学芸員生活 30 年で初めての担当です。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は歴史学で、日本中世史を専攻していますが、いまフナズシの研究に夢中になっています。先日は「近江のナレズシ県民大調査」で大変お世話になりました。おかげさまで、今回の調査では、フィールドレポーターの皆さんのご協力を得ただけでなく、龍谷大学農学部の学生さん、滋賀県庁の皆さんなどにもご協力をいただき、2893 人の皆さんから回答を得ることができました。結果はいま集計中ですので、6 月 1 日の交流会までお待ちいただければ幸いです。私もワクワクしながら待っています。



(橋本提供)

しかしながら、いま改めてフナズシの研究をしている自分の紹介文を書いていると不思議な想いになります。私は、岡山県の吉井川下流域の片田舎で生まれ、幼い頃から、川で釣りをしている祖父、アユ漁をしている父の姿をじっと見て育ちました。ところが、私は生き物にはまるで関心がなく、中学生時代には中国の古典を読んでいるような子供でした。大学は文学部に進み、歴史学を学びましたが、研究のテーマも「鎌倉幕府はなぜ滅んだのか」というものです。

***** 目次 *****

	巻頭文	橋本学芸員	P1
1	お知らせ	スタッフ	P2
2	講演会参加報告	スタッフ	P2
4	ゆり根は早く食べるべし	台所レポーター	P3
5	葉っぱでアート	スタッフ	P4
6	膳所公園冬期風景	FR 中野敬二	P6
7	冬のツバメ観察しました	大津野遊人	P8
8	2023 年度 11 月～3 月の活動報告		P8
9	2024 年度 4 月～9 月活動予定		P9
10	編集後記		P9

転機となったのは、琵琶湖博物館の準備室への就職です。そこではタンポポ調査が行われている真っ最中でしたが、私はまったく興味がわきませんでした。しかし、上司に（嘉田由紀子さんと言います）、「これからは環境のことも考えてください」といわれ、手探りで始めたのがエリ漁の研究です。それがやがて、フナの研究となり、フナズシの研究へと繋がっていきました。

そしていま、30年たって、ようやく参加型調査に辿り着きました。牛歩とはこのことです。生涯学習機関として、「参加することでより学びあう」を実践したいと思います。皆さんとフィールドレポーター交流会でお目にかかりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<こんな本も書いています>

橋本道範編『再考ふなずしの歴史』（サンライズ出版、2016年）

橋本道範編『自然・生業・自然観—琵琶湖の地域環境史—』（小さ子社、2022年）

フィールドレポーター担当学芸員 橋本道範

お知らせ！

- ▶フィールドレポーターだよりの2023年度第1号（通管57号）「スクミリンゴガイとタニシ類の分布調査」は琵琶湖博物館のホームページ、フィールドレポーターコーナーに掲載しています。ご確認ください。
- ▶2023年度第2回調査、「ナレズシ（フナズシ）調査」は1月31日に締切りました。いま調査票の集計・まとめ中です。
- ▶2024年度第1回調査は、「金石文」（金属や石に刻み付けた文字）の調査を検討中です。
- ▶フィールドレポーター交流会2024年度第1回は6月1日（土）にセミナー室で開催しました。多くの皆さんが参加していただき、ありがとうございました。結果は次号掲示板で報告予定です。
- ▶フィールドレポーター・スタッフに参加しませんか。“我と思わん方”“やってみようかな”、どなたでも歓迎です。

文化・経済フォーラム滋賀の講演会に参加しました。

2024年2月17日（土）15時から16時 びわ湖ホール（小ホール）開催

講師；東京農業大学名誉教授 小泉武夫氏

演題；「発酵で滋賀を元気に」

鈴木学芸員とフィールドレポーター・スタッフ5名参加しました。内容の一部を紹介します。

フナズシなど優れた発酵文化を持つ滋賀のすばらしさについて実例を挙げて説明されました。滋賀には沢山の種類のなれずしが有ってすばらしい。例えばフナ、ハス、ウグイ、オイカワなどを原料としたものや、サバのナレズシもあると紹介されました。

そして日本各地で発酵文化の推進ならびにその技術の普及活動について報告がありました。

ゆり根は早く食べるべし！

台所のレポーター

お正月のお料理に使おうと思い、年末にゆり根を買いました。大きくて立派なもので、おがくずに包まってポリ容器に入っていました。

使おう使おうと思いながら台所の隅に置いていたところ、2月の中旬になって、透明なポリ容器の中に緑色が見えているのに、気がつきました。ん…カビかな？ よく見ると、容器の蓋が少し持ち上げられて、膨らんでいます。

蓋を開けておがくずを取り除くと、なんとビックリ、ゆり根から芽が出ていました。しかも2つも。茎？は、蓋で押さえつけられて上に伸びることができず、グニャッと曲った状態で1cmほど伸長しています。先端にある緑色のボサボサは、葉っぱでしょうか？ 光も水も栄養も足りないため、細くて弱々しい姿になっているのかなと思いました。

下の写真は上から見たところです。先端の中央部に、白い小さいものが多数あります。花のつぼみには見えませんが、何でしょう？ いずれにしても、地植えにしてしばらく育ててみたいと思っています。花が咲くところまで、うまく育てられるでしょうか。



3月10日 茎が5cmに伸びた



食用のゆり根からでも、次の世代が生まれるのですね。サツマイモから芽が出るのには度々遭遇しますが、それはありがたくありません。ゆり根で新発見させてもらったことは嬉しく思いつつも、早く食べればよかったと後悔しています。

(「ゆり根は早く食べるべし」の写真2枚は台所のレポーター様提供)

「葉っぱでアート」のワークショップ

フィールドレポーター・スタッフ

“みんなの出会いと学びの場”をコンセプトに、琵琶湖博物館で2023年11月18～19日に「びわ博フェス」が開催されました。その中で私達フィールドレポーターは、「葉っぱでアート」と題したワークショップを行い、来場の方たちに楽しんでいただきました。

11月下旬は紅葉真っ盛りの時期です。「葉っぱでアート」はこの時期にピッタリの活動で、トンボや案山子などの形を切り抜いた紙の下に、きれいに色づいた葉っぱを置いて、トンボの羽根模様や案山子の服をデザインします。葉っぱの色だけでなく、質感などを生かして、小さな絵画が完成です。2時間足らずの短い時間でしたが、65人（大人34名、子ども31名）の参加者が逐次に訪れ、それぞれ素敵な作品を作って持ち帰られました。

—主役は紅葉した葉っぱ—

「葉っぱでアート」の主な材料は紅葉した葉っぱです。予め下見していた、博物館の周りや自宅近くの公園で、前日に樹木から直接採取しました。紅色、黄色、橙色、緑色になった、イチョウ、モミジバフウ、ナンキンハゼ、カエデなどの葉っぱです。新聞紙に挟んで乾燥させました。イベント当日、葉っぱの種類と彩を増やす色紙の碎片を、10個ほどのトレイに分けて準備しました。



参加された皆さんに開始前の説明をしましたが、説明の必要はなかったようでした。次々と葉っぱの入ったトレイに手を伸ばして葉っぱを持って、準備された「色々な葉っぱ」という掲示の前で、お子さんとお母さんが名前を確認されている様子が微笑ましかったです。皆さんの作品のアイデアが素晴らしく、見とれてしまいました。ご家族の皆さんがゆっくりと楽しんでいただける程度に入場整理していただけて良かったです。

担当したこちらも十分楽しみました。

（椋島昭紘）



赤色系でイロハモミジ、トウカエデ、ハウチワカエデ、モミジバフウ、ナンキンハゼ、サクラ、ブルーベリー、オタフクナンテン、ハナカイドウの葉が集まりました。鮮やかな赤色や渋い赤色、いろいろな色彩があるんですね。

黄色系ではイチョウ、カツラ、イタヤカエデ、クヌギ、クリこちらは黄葉（こうよう）です。

—大人が楽しい！ 子どもも楽しい！—

博物館でのワークショップは、子どもを対象にしていることが多いようです。けれどフィールドレポーターは、大人も子どもも楽しめる活動を心がけています。「大人が面白いと思う活動ですので、是非やってみて下さい」と声をかけて、呼び込みをしました。

参加した方たちの活動の様子を紹介します。

◇2、3歳の男の子が楽しそうに、葉っぱに糊を付けてペタンと貼っていました。

お母さんの声掛けとサポートもあって、りっぱな作品に仕上がりました。

◇小学校高学年くらいの子とそのお母さんが、黙々と（それぞれに熱中して）作っていました。お子さんは葉っぱを小さめに切って貼り絵ふうに、お母さんはマスキングテープでアクセントをつけて華やかな感じに。どちらも个性的でした。

◇いろいろな樹種、いろいろな色の葉っぱが用意されている中で、ナンキンハゼの赤紫色の葉だけを使い、葉の向きを変えることで模様をデザインして、“トンボの羽根”を作った人がありました。ユニーク！



(前田雅子)

—スタッフも楽しむ！—

準備段階で切りぬいたカタツムリ・トンボ・カカシ・チョウ・ネズミ・琵琶湖を捨てるのはもったいないと思い、会場の賑やかしになればと、黄・緑・赤・薄赤・青・水色で塗って会場の飾りつけに使いました。

帰りぎわにハイタッチしてくれた女兒がいて、可愛いなあ～何かお返ししたいなあと思い、飾りでよければプレゼントしようかと好きな色を選んでもらうと、薄赤のチョウがいいとのこと。遠い昔の私も薄赤を好む時期があったなあと懐かしみつつ、薄赤色に塗ったチョウをお土産にプレゼントしました。その後、他の女兒からも薄赤の希望があったので、追加で色塗りをしました。青や緑のトンボを選んだ男の子もいました。

(山崎千晶)



(「葉っぱでアートのワークショップ」
の写真は全てFRスタッフ提供)

膳所公園冬期風景

FR 中野敬二

2023 年度「スクミリンゴガイ」調査は7月末日で終了したが、地元膳所公園のその後が気になり観察を続けていた。異常な気温の高さが続く中、10、11 月になっても公園湖岸の産卵は収まる傾向がなく、場所も拡大し続けているのが観察された。

12 月上旬さすがに気温も下がり、新規産卵は収まるかに思えたので公園周辺を隈無く見て回った。11 月中旬以降の異常な湧水状況のおかげで、多くは湖面から高い位置にある夏場の卵塊痕跡多いものの、マウス 80 cm 水位にも関わらず、今の水位当たり存在確認出来るものは、卵塊が秋以降の発生と断定出来る。色合いの濃い物もあり 12 月に入ってもまだ活動が続いていると思われる場所もあった。

◎水位の下がった三の丸橋周辺石垣護岸。

白点線当たりが“0m”水位。



2023 年夏に観察出来なかった石垣も近づいて観察出来る。杭の卵塊は新しい。



黒点線は通常の水面
撮影：2023 年 12 月 10 日

卵塊は光の反射で
赤みが出ない
撮影が難しい



◎水位の下がった公園北側・膳所新橋と船着き場。

2023年5月14日初観測が出来た場所。

橋と湖周道路間の葦群の初見後、徐々に石垣湖水面に広がった。9月段階では一度活動が収まったかに思えた。水温が高すぎかと勝手解釈していた。

10月に至ると、葦への産卵は少なくなり、船着き場、突堤や周囲護岸へ産卵場所が一気に拡大した。



膳所公園北側と膳所新橋（写真左上点線） 釣り舟専用の船着き場

目立って多いのが、船に舫ってある岸壁。撮影できるのは昇降用の階段あたりで数も多い。岸壁上部から覗く事しか出来ないなので撮影し難い場所ばかりだが、何力所か塊になって見えるところがあった。

突堤、栈橋水面は距離があり見づら存在する。こちらは点在。色調も鮮やかな物があり産み付けられて日が浅い。調査時期（2023年5月～7月）には全く見られなかった場所であり、秋になってから産卵されたもので間違いない。



近江大橋西詰船着き場と膳所公園
撮影：2023年11月6日、12月11日

結果、近江大橋西詰下流から膳所公園周囲並びに公園南の護岸約200mで観察された。12月10日段階でまだ産卵活動が進んでいる実態が明らかになった。

（「膳所公園冬期風景」の写真は全て中野敬二様提供）

冬のツバメを観察しました

大津市 野遊人

2023年12月25日午後3時頃、場所は大津市柳が崎湖畔公園です。上空を数羽のツバメが飛んでいました。

2019年にこの近くに引っ越しして毎年12月下旬に観察しています。見つけた日の翌日以降は観察できませんでした。

冬のツバメについて、琵琶湖博物館亀田館長のコメントが掲示板通巻102号（2023年2月4日発行）に載っていますのでご覧になって下さい。



びわ湖大津館上空のツバメ

（「冬のツバメ観察」の写真は全て野遊人様提供）

活動報告・活動予定

2023年度（11月～3月）の活動報告

月	日	場所	参加者	主な議題・活動
11月	4日（土）	交流室	5名	定例会①びわ博フェス準備
	11日（土）	交流室	5名	定例会①びわ博フェス準備
	18日（土） 19日（日）	アトリウム セミナー室 実習室	各日 5名	びわ博フェス2023 ①FR紹介発表②FR活動紹介展示 ③葉っぱでアートのワークショップ
12月	2日（土）	交流室	5名	定例会①掲示板通巻103号検討
	16日（土）	交流室	5名	定例会①掲示板通巻103号発送
1月	6日（土）	交流室	6名	定例会①FR便り通巻57号（スクミリンゴガイとタニシ調査）②ナレズシ調査中間報告
	20日（土）	交流室	6名	定例会①FR便り通巻57号検討②ナレズシ調査検討
2月	3日（土）	交流室	7名	定例会①ナレズシ調査受付終了②次回調査テーマ候補、金石文検討③FR便り通巻57号
	17日（土）	びわ湖ホール	6名	講演会参加；小泉武夫氏「滋賀の発酵文化」

3月	2日(土)	オープンラボ	5名	定例会①ナレズシ調査まとめ②金石文の検討
	16日(土)	交流室	5名	定例会①掲示板通巻104号検討

2024年度4月～9月の活動予定

日 時		内 容	場 所	
4月	6日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	20日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
5月	11日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	25日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
6月	1日(土)	10:00~16:30	第1回交流会	セミナー室
	15日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
7月	6日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	20日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
8月	3日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	17日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
9月	7日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	21日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室

定例会は原則として、毎月第1、第3土曜日の13:30~16:30に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は琵琶湖博物フィールドレポーター (Email: freporter@biwahaku.jp) までお問い合わせください。

編集後記

今回掲示板は2023年度第2号です。もう少し発行回数が増えるように皆さんの気楽な一言など、投稿を期待しています。投稿は調査票の送付封筒に入れていただいても良いですし、メール (Email: freporter@biwahaku.jp) でも良いです。沢山の投稿お待ちしております。(担当 椋島昭紘)



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp